

HACHINOHE GAKUIN

# CAMPUS

# vol.31

キャンパス八戸学院

# 八戸学院



八戸環境・健康フェスタ2013に人間健康学部と看護学科の学生参加



国際交流エドグレンハイスクール ホームカミング



八戸学院野辺地西高校生による復興支援事業の活動(熱気球を上げる)



八戸学院フェスタ「絆」

## — Contents —

### ■ 法人

- ・八戸学院フェスタ「絆」

### ■ 八戸学院大学

- ・第33回秋桜祭
- ・平成25年度 父母と教職員の懇談会開催
- ・第44回明治神宮野球大会出場 大学の部 3年ぶり4度目の出場

### ■ 八戸学院短期大学

- ・第43回光華祭
- ・八戸環境・健康フェスタ2013に人間健康学部と看護学科の学生参加
- ・八戸学院短期大学後援会特別研究助成報告会の開催

### ■ 八戸学院光星高等学校専攻科

- ・企業によるセミナーを終えて
- ・グリーンパートナーが終了

### ■ 八戸学院光星高等学校

- ・第44回光星祭
- ・国際交流
- ・エドグレンハイスクール ～ホームカミング&光星祭～
- ・第44回明治神宮野球大会出場 高校の部 2年ぶり4度目の出場

### ■ 八戸学院野辺地西高等学校

- ・第39回野西祭
- ・震災復興支援事業 熱気球体験を実施
- ・全国高等学校総合体育大会レスリング競技 女子の部46kg級 第3位 清水目優生さん

# 八戸学院

## フェスタ



### 花は咲く

1  
 真っ白な 雪道に 春風香る  
 わたしは なつかしい  
 あの街を思い出す  
 叶えたい 夢もあった  
 変わりたい自分もいた  
 今はただ なつかしい  
 あの人を思い出す  
 誰かの歌が聞こえる  
 誰かを励ましてる  
 誰かの笑顔が見える  
 悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く  
 いつか生まれる君に  
 花は 花は 花は咲く  
 わたしは何を残しただろう

2  
 夜空の 向こうの 朝の気配に  
 わたしは なつかしい  
 あの日々を思い出す  
 傷ついて 傷つけて  
 報われず 泣いたりして  
 今はただ 愛おしい  
 あの人を思い出す  
 誰かの想いが見える  
 誰かと結ばれてる  
 誰かの未来が見える  
 悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く  
 いつか生まれる君に  
 花は 花は 花は咲く  
 わたしは何を残しただろう  
 花は 花は 花は咲く  
 いつか生まれる君に  
 花は 花は 花は咲く  
 わたしは何を残しただろう  
 花は 花は 花は咲く  
 いつか生まれる君に  
 花は 花は 花は咲く  
 いつか怒る君のために

### 「青春の絆」

たくさんの日々を あふれる想い胸に  
 この日のために 僕ら歩み続けてきた

倒れそうな時も くじけそうな時にも  
 友の手カラで 僕らまた立ち上がった

ひとりひとりの誇りに満ちた顔を上げ  
 描いた勝利を 今こそ勝ち取りに行こう

自分を信じ 仲間を信じ  
 強い絆の旗掲げて すべての力を解き放て  
 さあ 青春の栄光を手にする時が  
 流した汗よ 光り輝く星となれ

目指してた景色 それを手にするために  
 交わした誓い ずっと心ひとつにして  
 苦しい時にも 投げ出したい時にも  
 友の手カラで 僕らここまで来たんだ  
 ひとりひとりの 積み重ねた夢をつなぎ  
 その目に見えてる 今こそあの場所に立とう

今、ここにある 熱い想いで  
 青い絆の旗染め上げ 迎える明日の風を切れ  
 さあ 進み行け その胸を張り  
 僕らの時代を探そう 光り輝く星となれ

自分を信じ 仲間を信じ  
 強い絆の旗掲げて すべての力を解き放て  
 さあ 青春の栄光を手にする時が  
 流した汗よ 光り輝く星となれ

今、ここにある 熱い想いで  
 青い絆の旗染め上げ 迎える明日の風を切れ  
 さあ 進み行け その胸を張り  
 僕らの時代を探そう 光り輝く星となれ

## 理事長のメッセージ 「絆で結ばれた八戸学院」

今年4月から学校法人光星学院の学校は、「八戸学院」という名で結ばれ、幼稚園から大学までひとつの学院として、新たな歴史のページを開くことになった。

9月には初めて各学校が一堂に会して研修会を開いた。お陰様で、各学校の相互理解に繋がった。今また、園児も生徒も学生も教職員も公会堂に集まって「八戸学院フェスタ」が開催される。学院の名称がひとつになった記念行事だが、「八戸学院フェスタ」は学院を挙げての総合文化祭である。

名称統一を形とすれば、今回の行事は学院の教育の中身の発表である。そしてなによりも、園児、生徒、学生による心こもった発表が、新しい「八戸学院」という校名に魂を吹き込むことになり喜びである。

間もなく、当学校法人は創立60周年となりますが、皆さんの「絆」と「結集」によって迎えられることを期待します。

最後に、この「八戸学院フェスタ」のために多くの時間を費やし準備してくれた園児、生徒、学生の活動と指導にあたってくれた教職員の皆様に感謝します。

平成25年11月6日

八戸学院 理事長 法官新一

平成25年11月6日(水)八戸市公会堂で、八戸学院フェスタ「絆」を開催。附属幼稚園3園による「星の子音楽会」、高校2校、短大、大学の生徒・学生のステージ発表会。幼稚園から大学まで作品展示や学校紹介ビデオ上映等の展示も行いました。

法官理事長初め中村学院主、学長・校長・園長、生徒・学生・教職員ら総勢1500名が観覧。オープニングは、光星高校OBのアーティスト山本雅也さんが八戸学院の応援歌「青春の絆」を熱唱。そしてゼミ発表、ビデオ紹介、チャリーディング、ピアノ演奏、のへじ夏祭り、合唱、「絆」吹奏楽団による演奏。エドグレン高校長の英語でのスピーチもあり、文武両道の八戸学院にふさわしい発表会となりました。



# 第44回 明治神宮野球大会

期間：平成25年11月16日(土)～20日(水)

場所：明治神宮野球場・神宮第二球場

主催：明治神宮・日本学生野球協会

大学の部・高校の部 2部門に出場

## 大学の部 八戸学院大学 (東北3連盟代表)

### 明治神宮野球大会東北地区代表決定戦優勝

八戸学院大学硬式野球部は、2013年度秋季リーグ戦(8月24日～9月29日)、東北地区代表決定戦(10月25日～10月27日)を勝ち抜き、3年ぶり4度目の明治神宮野球大会への出場を決めました。

北東北地区の秋季リーグ戦では3戦目の青森大学に敗れましたが、トータル9勝1敗でリーグ戦を制し、明治神宮

野球大会東北地区代表決定戦へと駒を進めることができました。

東北地区代表決定戦では、初戦で強豪の東北福祉大学と対戦、2対1で勝利をし、続く決勝戦では、本学と同一リーグに所属する富士大学との対戦となりました。富士大学は春季リーグ戦で敗れた相手でもあり、準決勝までの3試合で25得

点をあげているライバル校です。その富士大学を1対0で撃破し、3年ぶりに明治神宮大会への切符を手にしました。

第44回明治神宮野球大会は、1回戦で福岡大学(九州3連盟代表)と対戦、6対2で勝利しベスト8へ進出しました。続く2回戦では優勝候補の亜細亜大学(東都大学野球連盟)との対戦となりましたが、0対7で敗れてしまい残念ながらベスト4進出はなりません。

皆様からの温かいご声援に心からお礼を申し上げます。また、第44回明治神宮野球大会への出場にあたり、多くの方々からの御寄附を頂戴していることに深く感謝申し上げます。



## 高校の部 八戸学院光星高等学校 (東北地区代表)

### 硬式野球部秋季東北大会優勝

平成25年度秋季東北地区高校野球大会において2年ぶり4回目の優勝をすることができました。そして、来春の選抜甲子園の出場権をほぼ手中にすることができました。これも皆様方のご支援ご協力があってのことだと心から感謝申し上げます。

現チームは夏の甲子園予選にも多数レギュラーとして出場しており、経験では他校の選手より勝っていたので、選抜甲子園出場を十分に狙える戦力が整っていました。しかし、青森県大会の決勝戦で青森山田高校に完敗してしまい、自分たちの力の無さを痛感させられ、改めて勝

負の厳しさを教えられる結果になりました。また、昨秋から今夏まで一年間優勝から遠ざかっていたためか、チームには負け癖のようなものがついてしまい、敗戦のショックで完全に自信も失ってしまいました。それでも東北大会の出場権は得ていたため、何とかチームを立て直すべく、短期間ではありましたが懸命に練習に励みました。八戸学院大学の正村監督にも協力をいただき、チームは急激に強くなっていきましたが、一度失った自信は簡単には取り戻すことはできず、手応えを感じないまま東北大会の開幕を迎えました。東北大会初戦は、優勝候補筆頭の仙台育英高校でしたが、序盤の3点のビハインドを中盤以降逆転し勝つことができました。この試合で一年生の中川投手が素晴らしいピッチングをして、その後の試合でも大活躍しチームの優勝の原動力になりました。新しいスターの出現がチームに勢いと自信



日刊スポーツ新聞社 提供

を取り戻してくれました。

東北地区代表として出場した神宮大会では、初戦で四国代表の今治西高校に敗れてしまいましたが、チームの課題や自分たちの実力がどのレベルなのかが明確に判り、これから始まる厳しい冬期の練習の糧になると思います。

八戸学院光星高等学校として新たな歴史を作れるよう、また学校の代表としてふさわしいチームになるため厳しく練習に励み、全国制覇を目指し頑張っていきたいと思います。

(硬式野球部 監督 仲井 宗基)



東奥日報社 提供

# 八戸学院大学

## 第33回 秋桜祭

### 「新起意っ天」～ONE CHANCEをつかめ～

10月26日(土)・27日(日)に第33回秋桜祭が開催されました。校名が「八戸学院」に統一された今年は、新しいことにどんどん挑戦し、それぞれの目標に意欲を持って臨み、頂点を目指そうという意気込みをテーマに掲げて取り組みました。

また、校名変更元年の今年は2大イベントを用意しました。1つ目は、田子町からニンニクとべこ祭でも人気の高い「田子牛の丸焼き」を実施。販売開始の12時間前から炭火でじんわり火を通しま

した。A4ランク以上のお肉とあって、味は超絶品。お客様も長蛇の列を作り、2日間で牛1頭を完売することができました。2つ目は、札幌在住7人組バンドA.F.R.O (アフロ)の「スペシャルライブ」です。近年、アーティストを呼んでのイベントは行われていなかったため、準備にスタッフ一同翻弄させられましたが、ライブが始まると体育館内が一体となり、大いに盛り上がりました。

その他、外部企画として環境科学技術

研究所の展示ブースや青年会議所の地域ビジョンフォーラム、フリープレイズのトークショーなども開催されました。

台風の影響を心配しながら準備を進め、直撃は避けることができましたが、秋風が吹き荒れる中、テントで販売した学生。日頃ゼミなどで研究している内容の発表や、毎年恒例となった人間健康学部と看護学科合同企画の健康チェックコーナーでスタッフとして活動した学生などなど。おもてなしの心を大切にしながらも、自分達も楽しみながら笑顔の2日間を過ごすことができたと思います。



平成25年10月19日(土)にダイワロイネットホテル八戸にて、「第8期起業家養成講座」の修了式が行われた。今回で第8期目となる起業家養成講座は「10年で100人の起業家を青森から」を目標に、本年6月26日に開講、全14回が終了し受講生8名が修了証書を受け取った。第8期で



## 「第8期起業家養成講座」修了

は、全8名中7名が女性受講者だった。講座最終日には、フューチャーベンチャーキャピタル株式会社青森事務所長の石井 優氏(シニアインベストメントオフィサー)をお招きし、「私が見た成功する起業家、失敗する起業家」と題して講義が行われた。石井氏はこれまで接してこられた起業家の事例を挙げて、何をもって「成功」とするのかという「成功の定義」は人それぞれだと思うが、成功する起業家像としては「愛情深い反面、冷酷にもなれること」、「綺麗ごとしか言

えない人は成功しない」、「徹底的に真似をすること。真似も徹底すれば本家を越える」、最後に「自分の夢や理想とするものを貫き通すためにも、現実的に考え振舞う必要がある」と述べられた。

石井氏の講義後、受講生による起業家のプレゼンテーションが行われ、フューチャーベンチャーキャピタル株式会社青森事務所の外山 和恵氏(インベストメントオフィサー)より講評・アドバイスをいただいた。講座終了後には、本講座のOB・OGを交えた懇親会が行われ、活発に情報交換・意見交換が行われた。



## 若者 vs 大人『ビブリオバトル』開催 ～秋桜祭・光華祭～

10月26日(土)・27日(日)の秋桜祭・光華祭にて、『図書館プレゼンツ 若者VS大人ビブリオバトル』が開催されました。これは「若者が大人に読んでほしい本」と「大人が若者に読んでほしい本」を紹介する企画展示で、学生の皆さん(若者)が日々、大人たちから様々なことを言われ続け、大人に対して思うところがあり、また大人も若者たちに様々な思いを抱えており、自分たちが「読んでほしい本を紹介する」ことで、お互いの想いや気持ちをぶつけよう!という取り組みです。

ビブリオバトルの会場では、紹介理由や自分の思い出、大人・若者へのコメン

トと共に、紹介された本をできる限り揃え、実際に手に取ることができるように展示しました。展示数は約50点になり、普段あまり本を読まない人にとっても、紹介文付きで分かりやすいものになりました。訪れた人たちは、「この本、読んだことがある」「これは読んでみたいかも」と展示されてある一冊一冊を丁寧に観覧していました。訪れた人の中には、ソファに座って展示されていた一冊を読みきる人までいました。



## 「平成25年度 地域医療セミナー」開催

平成25年10月10日(木)、美保野キャンパス内5号館(大学会館)を会場に『平成25年度 地域医療セミナー』を開催した。

今年度は「空飛ぶ医療～ドクターヘリの活躍」と題して、八戸市立市民病院副院長・救命救急センター所長の今明秀先生にご講演いただき、学生や地域住民など200名を超える人が受講した。

冒頭では、「命の大切さ」について、「自分が死んでしまったら親は?」「自分が死んでしまったら友達は?」と参加者に

問いかけ、様々なデータを示しながら講義がスタートした。

AED(自動体外式除細動器)の使用方法や胸骨圧迫など、救命措置の仕方や実際にAEDを使用して命が助かった事例を取り上げて、分かり易く説明された。

また、医療現場の現状について、医師や看護師の人数、全国救命救急センターの充実度、研修医プログラム第1希望学生数(2011年度)、高度な医療機能の順位、病院機能評価(平成21年度)など、全国のデータを示しながら、全国的な現状と八戸市市民病院の現状が述べられた。

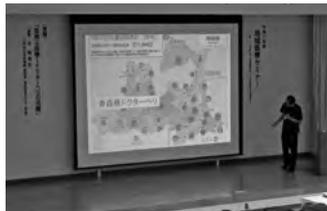
八戸市市民病院は、全国救命救急センターの充実度、研修



医プログラム第1希望学生数(2011年度)、高度な医療機能などは全国で上位に位置しており、病院機能評価(平成21年度)では全国トップであると説明された。

そして、八戸市のドクターヘリ導入の経緯や現状、ドクターヘリ導入による効果が説明され、ドクターヘリでカバーできない夜間や建造物密集地の対応のために、ドクターカーを導入したことが述べられた。

最後に、ドクターヘリやドクターカーの導入され、現場に医師が出てゆくことで劇的救命が可能になると述べられた。



平成25年10月4日(金)、図書館チャペルにて、私立短期大学図書館協議会(以下、私短図協)東北地区総会が行われました。

研修会では、八戸市立南郷図書館の館長である石原均氏をお招きし、「図書館と地域との連携～なぜ地域との連携なのか～」と題して講演会が実施され、私短図協加盟館の司書が東北各地より参加したほか、本学教職員や一般の方々も参加しました。

講演では、石原氏が平成21年に南郷図書館長に就任してからの取り組みを紹介しました。「図書館に対する既存のイメージを変えたい」という想いから、今まで公共図書館ではなかなか実現に至らなかった小中学校図書室への訪問活動など

## 「私立短期大学図書館協議会東北地区協議会」開催

図書館と地域との連携～なぜ地域との連携なのか～

の学校支援、八戸市児童科学館と共同で天文教室開催、音楽演奏と読み聞かせを館内外で実施、八戸市が開催する各種イベントへの参加など、多岐に渡る様々な取り組みを積極的に実践されているそうです。

最後に石原氏は、図書館に対する既存のイメージを変えるには「地域の人」「組織」「企業」「自治体」などの連携が常に必要だったことを強調され、講演

は終了しました。

公共図書館と大学図書館の違いはありますが、図書館としての取り組みがまだまだ不足していることを実感し、本館も地域連携や広報活動にも力を注いでいきたいと思っています。



## 「八戸学院大学」OB&OG訪問 part31



青森総合警備保障株式会社 八戸支社  
営業課係長 東 卓博さん

### プロフィール

光星学院高等学校 卒業  
八戸大学 19回生  
青森総合警備保障株式会社 八戸支社 営業課係長

### ■学生時代の思い出を聞かせてください

学生生活のほとんどが野球漬けの毎日でした。私は飛天寮の1回生で、1年目の秋に2部から1部へ昇格することができたのが印象に残っています。現在も微力ながら野球に携わることができ嬉しく思います。

### ■社会に出て感じることを心掛けていることはありますか

自分の損得で動かず、人のためになるように動くことを心掛けています。学生のときに多くの人に支えられたので、感謝の気持ちを忘れずに周りの人のために行動していきたいと考えています。また、後輩の就職活動の手助けになれるよ

うに、「進路決定のための交流会」にも足を運ばせていただきました。

### ■後輩へのメッセージ

学生から社会人になるというのは自覚と責任感を強く持ち、企業発展のためであったり家族や友人のためであったり、自分なりの目標必達に向けただけ行動できるかということです。

学生のうちから何事にも感謝の気持ち・謙虚な姿勢で前向きに取り組んでほしいと思います。そうすれば、今後の成長過程でさまざまな壁にぶつかっても一つずつ解決できると思います。自分の成長は企業の成長でもあるため、スキル向上に努め、「ありがとう」と感謝される若しくは信頼される社会人になって大いに躍動して頂きたいと思っています。

## 進路決定のための交流会 in 八戸学院大学

平成25年9月26日(木)、学生食堂で「進路決定のための交流会 in 八戸学院大学」が行われた。キャリアプランニング授業の1つとして新企画で行ったもので、様々な職業人から仕事の魅力・やりがい・難しさなど貴重な体験を本音で語ってもらうことを目的に開催した。

参加したのはサービス業、運輸業、金融業、医療・福祉、自動車小売業などの県内企業8社の人事担当者や若手社員の10名。若手社員には八戸学院大学と八戸

学院短期大学のOG、OBに参加いただいた。

進路決定のための交流会では、学生がグループ8個に分かれ各グループで学生がファシリテーターを務めた。アドバイザーのあおもり中小企業人材支援センター、ジョブカフェあおもりのコーディネーターやキャリアカウンセラー5名の力をかりて進行、学生ら



は企業の人事担当者や若手社員の先輩方の話しに聞き入り、積極的に質問した。

会の最後で、各グループの代表学生1名が約1時間での気づきや学び、感想を発表、12月から始まる就職活動への意欲を表明した。また企業の人事担当者、卒業生らは在学生へ激励の言葉を述べた。

## 社会福祉士国家試験対策講座はじまる

平成25年9月7日から社会福祉士国家試験対策講座がはじまった。全16講義、最終日は12月14日までの土曜日に八戸学院大学・八戸学院短期大学総合実習館を会場に行っている。



受講生は人間健康学部3年生、4年生の13名。講師に青森県社会

福祉士会、三八支部および上十三支部会員の県内で社会福祉士として活躍されている方々を迎えている。

講義では施設での業務内容の紹介や社会福祉士としての役割、必要な知識から社会福祉士国家試験合格にむけた勉強方法や取り組み方、問題の解き方のテクニックなど国家試験対策に加え社会福祉

士を目指すうえで大事な内容が盛り込まれている。八戸学院大学人間健康学部人間健康学科の社会福祉士プログラムでは、指定科目の単位を取得することで国家試験の受験資格が得られる。学生は福祉施設などで活躍することを目標に、本講座での学びを活かしながら1月開催の国家試験合格に向け勉強に励んでいる。

## 第19回 就職合宿

平成25年11月9日(土)・10日(日)泊2日の日程で三沢市の星野リゾート「青森屋」において、株式会社マイナビ、キャリアコンサルタント、企業人事採用担当者4名、合計8名の講師を招き第19回就職合宿が開催された。

八戸学院大学ビジネス学部・人間健康学部の3年生、八戸学院短期大学ライフデザイン学科の1年生を対象としたこのイベントでは、就職活動の基礎作りと面接の実践練習を徹底して行った。

1日目の就職活動の基礎作りでは、自己分析と自己PR、学

生時代に力を入れたことを各自がまとめ、グループ内で発表しあいながら取り組んだ。また、夕食後は「『企業が求める人物像』について」をテーマにキャリアコンサルタントと企業人事採用担当者をパネラーとしたパネルディスカッションが行われ採点側の視点を学ぶ機会を得た。



その後、各自が作成した自己分析ワークの修正や添削など行い20時を過ぎる過激なスケジュールをこなした。

2日目はグループごと会場を別にし、2回の模擬面接と面接指導を中心に進めた。実践的で様々な質問が飛び交う中、真剣に、かつ積極的に取り組んでいた学生たちは、12月1日からの就職活動スタートを切るに当たり大きく成長したようだ。

平成25年9月1日(日)、八戸パークホテルにおいて「平成25年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学保護者説明会 ～子供の可能性は親が伸ばす!～」が行われました。これから進学を考えている52

## 9月1日 保護者説明会

名の保護者が参加しました。八戸学院短期大学 外崎充子

学長が挨拶を行い、講演では、社会保険労務士・ライフプランナーとして活躍中の神成修太郎さんをお迎えし、将来ビジョンの重要性、学費・住居費について、

さらに、子供がどのような人生を過ごしたいかなどを40分間にわたりお話いただきました。

続いて学部学科説明・個別相談が行われ、それぞれの学びの特色や学生生活全般に関する相談が多く、参加者からは「よく理解できた、参加して良かった。」というご感想を頂戴しました。



## 「平成25年度 父母と教職員の懇談会 開催」

平成25年度の八戸学院大学父母の会「父母と教職員の懇談会」が、10月27日に八戸学院大学・八戸学院短期大学総合実習館において開催され、約30名の父母が参加した。

初めに笹本副会長が挨拶をし、父母の



会の活動について説明した。続いて丹羽八戸学院大学副学長が挨拶し、大学の近況について説明、報告した。

次に、丹羽ビジネス学部長と吉田人間健康学部長が各学部の現状や教育の取り組みについて説明した。その後、保護者の皆様を知っていただきたい大学でのサポート体制について各センター長がわかり易く説明を行った。木鎌教育センター長は、講義の履修・成績・卒業要件等教務支援サポートについて述べ、三本木学生支援センター長がカレッジアドバイザー制度や奨学金等学生生活サポートについて述べた。また、村本キャリア支援副センター長が、就職活動・就職状

況等就職支援サポートについて述べた。保護者にとって、大学の仕組みや様々な学生支援について知ることが出来る機会となった。

個人面談では、カレッジアドバイザーが春学期末までの成績やゼミ・部活動の様子を父母に説明し、父母からの様々な質問、相談に応じていた。また、教務・学生・就職支援の各職員も相談を受け付けた。面談した父母は、教職員から直接聞くことが出来る有意義な時間となった。

懇談会は大学の状況を知り、また父母と教員が面談を行う1年に一度の機会なので、今後も多くの父母の方々に参加していただけるようにしていきたい。

## 平成25年度 夏季 教員免許状更新講習

平成21年度から始まった教員免許更新制度を受けて、今年も大学・短期大学において8月2日(金)から7日間の日程で講習を開催した。この制度は教員免許の有効期間を10年間とし、更新時には2年間で30時間以上の講習受講を義務づけるもので、講習は文部科学省の認定を受けた大学が実施、県内では本学のほかに弘前大学等で開催されている。

青森県南はもとより岩手県北をも含めたこの地域で、最も多くの種別の教員免許課程を有する高等教育機関として昨年に引き続いての開催となったが、次第に地域に定着し、今年は延べ772名の先生方が受講した。平成21年度からの受講者累計は、すでに4000名を超えている。

今回、本学では必修1講習及び選択9講習を開講したが、定員充足等により申



し込みをお断りした講習もあったことから、今年2回目の講習として本年12月に開催するための準備作業を進めているところである。

## 大谷学長 オートルート・アルプス 日本人初完走

「Haute Route Alps (オートルート・アルプス)」はアルプス山脈を舞台にスイス・ジュネーブからフランス・ニースまで866キロ、19もの峠を越え、獲得標高2万1千メートルを7日間で走破することから、「最も過酷な自転車レース」と称される。世界各国から600人が参加し、約3割がリタイアするほど過酷を極める厳しいレースである。

このレースに、日本から参戦する「Team TAUGE Japan (チーム・トーゲ・ジャパン)」の一員として、八戸学院大学の学長大谷真樹学長(52歳)が挑戦した。他のメンバーはアテネ五輪自転車競技日本代表の田代恭崇さん、俳優でサイクリストの筒井道隆さん、元自転車プロレーサーのティム・スミスさん。大谷学長は公務が多忙な中、早朝や週末など限られた時間を効率よく活用して、トレーニングに励み、身体を鍛え抜いた。

8月18日、7日間におよぶレースがいよいよスタートした。日を追うごとに疲

労が蓄積する厳しい条件の下、リタイア・失格する選手が続出したが、チーム・トーゲのメンバーは全員、完走を果たした。

これは、日本人初の快挙で、大谷学長はレース後「『一番』というのは更新されるが『初』というのは永遠に変わらない。すごく光栄なこと」「『初』という名誉は勇気を出して最初に挑戦し、成し遂げたものだけに与えられる」と喜びを表した。

想像を超える過酷なルートに加え、体調不良や睡眠不足、集団落車に巻き込まれるなど、7日間のレースは決して順調ではなかった。しかし、大学の起業家養成講座受講生から贈られたメッセージ入りのボトルに励まされながら、気力を振り絞っ

て走り続けた。

「挑戦する権利と失敗する自由」。大谷学長には日頃から学生たちに伝えている言葉を体現して証明したい、自ら可能性に挑戦する姿を見せ、学生にも挑戦してもらいたいという思いがあった。

さらに今回の挑戦を終えて、「参加したレースや開催地であるヨーロッパの自転車文化を通じ、地域活性化のヒントをたくさん得ることができた。今後はこれを活かし、地域に貢献していきたいと考えている」と語った。

大谷学長のさらなる挑戦は続いていく。



## 第43回 光華祭

第43回八戸学院短期大学光華祭が平成25年10月26日(土)27日(日)の2日間にわたり盛大に開催された。今年度は、『Brand New World ～新たなる八学短大～』というテーマを掲げ、学生祭実行委員会を中心に約2ヶ月間にわたり準備をしてきた。

光華祭の企画は、学科企画、ゼミナール、サークル企画、外部企画があり、学科企画では各学科の特色を活かした企画が会場を賑わした。幼児保育学科では「てづくり！こどもの部屋」「美術作品展示」「表現作品展示」「ピアノコンサート」「手作りえほん&展示会」「附属幼稚園園児作品展示」などを企画。ライフデザイン学科では「デジカメ印刷工房」「親

子料理教室」「8 tan キャンパスラジオ」「ニュースポーツ体験」「広告デザインポスター作品展示」を企画。看護学科では「看護健康ランド」の企画を実施した。ゼミナール、サークル企画では、ステージ発表、展示、模擬店に分かれて実施した。ステージでは「アンパンマンショー」「ウィンドアンサンブルコンサート」「ダンスサークル発表」を行い、親子連れでも楽しめる企画を幾つも揃えた。他にも「イングリッシュハンドベル演奏会」「託児所」「映画上映」「現代美術作品展示」「壁画作品展示」「箱庭と部屋」「言葉と風景を感じる写真作品展示」など個性溢れる企画が目立った。模擬店では、B-1グランプリでお馴染みの八戸せんべい

汁、富士宮焼きそばの他、ラーメン・カレー・唐揚げ・たこ焼き・わたあめ・チヂミ・だんご・アイスなどの模擬店が並び、学生達がそれぞれの味自慢を競っていた。

26日(土)に開催された中夜祭では「クイズ大会」「ダンス」「カラオケ」「男装・女装コンテスト」など数多くのイベントが行われ、学科を越えた交流により学生達は最高の時間を過ごす事ができ、いつも以上に輝いていた。

今年度も来場して下さったお客様が笑顔で帰っていただけるよう、学生達は精一杯のおもてなしをし、新しい八学短大の出発となる学生祭となった。



# 健康まつり

平成25年9月29日(日)秋晴れのもと、八戸市環境・健康フェスタ2013“健康まつり&環境展”は、八戸市公会堂を会場に開催された。青森県は日本一の短命県であり、県民の平均寿命と健康への取り組みが求められている。大学人間健康学部



は平成17年より健康まつりに参加し「健康的なダイエットコーナー」を設け、翌年より「あなたの健康・体力、大丈夫？」の企画を継続している。平成22年より短大看護学科が参加し、更にその活動内容を拡大している。

今年新たな八戸学院の旗を掲げ、学生リーダーが中心となり活躍した。ステージイベントでは、大学で生まれたご当地体操である『八戸せんべい汁体操』を大学の元気あふれる学生により披露された。本学健康まつりコーナーでは、体組成計、骨密度、握力、血圧、簡易的貧血検査などの値を知ることができ、年に一度の健康チェックを楽しみにされて訪れる方も増え、今年の来場者は250名を越えた。市民の方々に「どうしたら健康になれる？」と



質問された学生達は、自分が知る限りの健康の知識や情報を熱心に説明していた。学生に健康について問いかけてくださることで、共に健康について考え、学生自身も健康を意識することに繋がっているのではないかと感じた。

年々賑わい、活性化している健康フェスタと健康調査活動は、法人光星学院の方々より多大なるご支援とご理解のもと運営され、学生達の成長の場となり地域住民の健康促進に貢献している。

## 求められる保育者になるために

幼児保育学科1年生対象の就職支援講座として、9月25日八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ山西幸子園長の講話が行われた。

1年生は後期終了後に保育園と施設の実習に取り組むことになっており、保育者になる意識を高めることを目指しテーマは「求められる保育者とは」とした。

「子どもは先生が大好き」「保護者にとって素敵な先生であるために」「職場でお互いに気持ちよく働くために」「幼稚園について」「働くことについて」という5つの項目について事例を交えての話を、学生はメモを取りながら熱心に聞いていた。また、講話を聴いての感想と今の自分に不足していること、今後自分

自身が取り組むべき課題についてレポートにまとめ提出した。レポートにはそれぞれの課題に早速取り組みようとする決意が記されており、今後の成長を期待できるものであった。

(以下レポートより抜粋)

- ・話を最後まで聴くことの重要性を改めて知り、友人や家族の話を良く聴く努力をしたい。
- ・保護者に信頼される保育者になるため、新聞、本を読み、社会性を身に付けたい。
- ・普段の友人同士の会話でも言葉遣いに気を付け、敬語を勉強する必要がある。
- ・友人や家族に対して笑顔を見せられるよう、また、心が弾く笑顔を心掛けたい。
- ・「保育において失敗も成功もない」という話に、私はよく「失敗だ」と決めて終わっているの、見方を変えたり新しい発見につながるようにしたい。



## 後援会特別研究助成報告会を開催

平成25年10月24日(木)に八戸学院短期大学後援会の特別研究助成にかかる報告会を、研究委員会の司会進行で開催いたしました。これは研究活動の内容を短期大学の教職員に対して報告し、研究活動の振興を図っていこうと毎年実施しているものです。



研究内容は、「南郷アートプロジェクトの活動における地域交流と現代美術の在り方について」、「県南地方の農業振興による地域活性化への展望と経営戦略」など地域性に富むもの。「時間的展望と死の概念に関する発達的研究」「八戸市の地域住民の生活習慣と骨密度に関する研究」など学科の特長を活かしたものでした。学生を参加させながら個人研究や共同研究など7件、延べ11名による研究報告が行われました。

研究報告後に外崎充子学長より、短期大学の使命は「教育・研究・地域貢献」であり、研究する姿勢が学生に良い影響を与えている。学生の80%以上が青森県

内出身者であることから地域貢献を視野に入れた研究は望ましい。」との講評がありました。また、中川原俊雄後援会会長からは、「八戸学院短期大学の特色ある研究活動として定着しているのだから、これからも継続して学術研究を助成していきたい。地域貢献に役立てながら、学生の教育に邁進していただきたい。」との激励の言葉をいただきました。



2013年11月6日、八戸市公会堂大ホールで、「八戸学院フェスタ」が盛大に開催されました。園児、生徒、学生、教職員が集い、「絆」をより強いものにしたこの総合文化祭で、八戸学院短期大学ライフデザイン学科の1、2年生学生全員が、「縁の下の力持ち」としてお手伝いさせていただきました。

ライフデザイン学科では、毎年この時



## 「縁の下の力持ち」として

期に学科行事である「ボランティア」を実施して、全員が被災地でのボランティア活動などを行ってきたのですが、今年は予定を変更して、フェスタの準備や片付け、司会進行等、「縁の下の力持ち」として全員がお手伝いすることになりました。

大ホール前ホワイエの展示物設置、ステージ設営補助、受付接待補助、総合司会・影アナなどが主な役割でした。フェスタ裏方の体

験をとおして、「縁の下の力持ち」として働く充実感味わわせていただき、心から感謝しています。

舞台袖で待機して働く学生は、5日の準備とリハーサルで全体の流れや注意点を把握し、予定外の状況への対応も考えて本番に臨んだのですが、司会や他の係り学生にとって心強い存在となり、スムーズな進行につながったとのこと。また、ホワイエの展示発表を「星の子音楽会」に会場した方々が大勢来て、熱心に見て下さいました。看護学科、大学生の皆さん全員にも、ぜひ共有して欲しいと思った、素晴らしい「時」でした。



## 平成25年度 父母の会学業相談・個人面談会

平成25年10月20日(日)に平成25年度父母の会学業相談・個人面談会（八戸学院短期大学父母の会主催）が八戸学院大学・八戸学院短期大学総合実習館で開催された。

昨年度までは、「総会」「学科別全体会」「個人面談」として会を開催していたが、今年度から「総会」を7月に開催し、「学科別全体会」「個人面談」と切り離れた形で開催した。今回の学業相談・個人面談会の内容については、各学科の特色を活かした形で「学科別全体会」と「個人面談」として例年通りの開催であった。

全体会では、父母の会大久保会長挨拶に続き、学長（蛭田学長補佐）挨拶の後、各学科別全体会へ移行した。各学科別全

体会では、学科長挨拶、学科の取り組み状況等の説明、教員紹介や各委員会（教務委員会、学生委員会、就職支援委員会）の取り組み状況等の報告が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。個人面談では、ゼミナール担当の教員が前期までの成績や学生生活の状況、ゼミナール活動の様



子等を保護者へ詳細に説明した。普段知ることができない学生生活の様子を知った保護者は、満足した様子であり有意義な時間となったようである。

今年度は、全体で60組67名の保護者に参加いただいた。父母の会事務局としては、年1回の主催となるため、更に多くの保護者に参加していただけるよう、案内形式や開催内容を更に検討し、充実していきたい。



# 八戸学院光星高等学校専攻科

## 企業によるセミナーを終えて

6月のマツダ自動車によるセミナー(技術講習会)に続いて、10月10日(木)及び25日(金)の二日間、二社によるセミナーを自動車科1・2年の学生全員を対象に、本校実習場において実施いたしました。

10日の技術講習会は、株式会社青森ダイハツモータース様のご協力によるもので、講習内容はダイハツ工業が開発した自動車の衝突回避支援システム「スマートアシスト」(SA)に関する講義でした。メーカーの技術スタッフによるシステムの機能についての講習を受けた後、SA

搭載車を学生全員が試乗しその性能を体験しました。

また、25日の技術講習会はスズキ自動車株式会社様のご協力によるもので、講習内容はガソリンエンジンの電子制御燃料噴射システム(EPI)と低燃費に貢献するシステム「エネチャージ」に関する講義でした。そのシステムについて、現車を使っての整備方法等の

説明を受け後、学生全員が試乗しました。

この技術講習会を受講した学生は「各自動車メーカーの最新技術を詳しく知ることができ、受講して大変良かった」、「各メーカーの新技術には驚いている」、「大変勉強になりました」等と感想を述べていました。ご協力いただきました各企業の皆様方には、心よりお礼申し上げます。



平成25年10月11日(金)、自動車科恒例のクリーンパートナーの活動が行われました。専攻科自動車科の学生と教員の39名が、日ごろ通学に利用している通学路等の清掃奉仕活動を行いました。



## 恒例 クリーンパートナーが終了

ボランティアで道路や公園など公共施設の清掃等を行い、環境美化を目標にした「はちのへクリーンパートナー」へ登録してから今年で4年になります。

今年は昨年と同じルートで、第1ルートは2年生と1年生の半数が国道45号線の両側を、第2ルートは1年生の残り半数で、八戸第一養護学校付近

から美保野グリーン牧場を通り美保野キャンパスまでの歩道を清掃しました。

今回は、清掃活動途中から天候が急に変わり雨が降り、途中から雨合羽を着ての作業でしたのでなかなか捗らなかったようでした。しかし最後の目標を達成するまで頑張りましたので、学生各自には達成感があつたようです。また、初めて参加した1年生はゴミの多さに驚いていました。

## 研修旅行を終えて

平成25年9月18日~20日の3日間、介護福祉科2年生の30名は東京方面へ研修旅行に行ってきました。この研修旅行は、規律ある集団生活の中でお互いに親睦を



深い協調性を養うと共に、国際福祉機器展への参加や関東都内の福祉施設の見学を通し、介護福祉士としての知識を深める事を目的としています。施設見学では、最新の医療型障害児入所施設の見学をし、重度の障害を持つ子どもと家族のニーズを支えていることを学びました。盲養護老人ホームでは、視覚障がい者が、自分らしく日常生活を送るにはできる部分を見極めながら、できるだけ自立を支援することの重要性を視覚障害者の実際の生

活の場の見学を通して学びました。その他の旅程では、東京湾ディナークルーズや東京ディズニーシー、都内自由行動等、卒業前の思い出づくりとなりました。何より、介護福祉士の資格を活かした職場は多岐に渡る事を学び、10月7日より始まる介護実習に向けてクラス一員、より質の高い介護福祉士を目指して行きたい!!と、心を新たにし帰路につきました。



## 介護実習Ⅰを終えて

介護福祉科1年生は、9月3日(火)~10月3日(休)の約1ヶ月、初めての実習を経験しました。介護の対象者の生活の場を知るという目的で、市内近郊のデイサービスセンターやホームヘルプステーション、グループホームや障がい者支援施設、小規模多機能型居宅介護事業所の6種類の施設・事業所で実習させていただきました。たくさんの利用者様と出会い、一人ひとりに合わせた支援を行う必要性を学び、また、コミュニケーションを図ることの難しさや、根柢を持って支

援をしていく重要性も実感しました。そして、常に利用者様の立場に立って考え、支援していくことの大切さも学ぶことができました。これから学習を重ね、2年次の介護実習Ⅱでは、一人ひとりの利用者様のニーズに合わせて、満足していただけるケアを提供できるように、自分自身の知識・技術・態度を高めていきたいと思ひます。



## 第44回 光 星 祭

10月19日・20日の2日間にわたって第44回光星祭が開催されました。20日の日曜日は、あいにくの雨にもかかわらず、二日間の来場者数は、2500名を超え、たいへん盛況に行われました。今年度は「八戸学院光星高等学校」と校名が変わっての文化祭ということで、全校生徒からテーマを募集した結果「新生八戸学院光星～新たな歴史の1ページが今ここに～」という、新たなスタートにふさわしいテーマに決まりました。内容は、4科の活動内容の展示や、研究発表、文化部を中心とした部展や、体験コーナー、PTA展、企業展など盛りだくさんの内容でした。中でもひとときわ注目を集めていたのが、今年度、姉妹校を結んだエドグレン高校の教員、生徒との交流でした。高校の紹介や、グッズ販売、演劇発表など、今までの光星祭にはない、国際色豊かなものでした。また、恒例の模擬店は、11クラブが出店し、盛りだくさんのメニューを提供、たいへんな賑わいを見せていました。各種イベントも充実した内容で、光星祭恒例のカラオケ、ダンスコ

ンテスト、附属幼稚園のお遊戯など、見る人を飽きさせないものでした。また、OBでもある山本雅也さんは、1時間のライブと後夜祭にも出演していただき、生徒と一緒に楽しい時間を過ごしました。

ここ数年、思うことですが、光星祭は確実に進化を遂げています。来年も「おもてなし」の精神で地域の方々に愛される光星祭であり続けたいと思います。



# 教育講演会

平成25年10月7日本校体育館において、八戸市立湊中学校松村道弘校長先生を講師にお招きして教育講演会が開催されました。

「私の生きざま」という演題で、幼少期から現在に至るまでの様々な体験を通して感じた事を、エピソードを交えての講演でした。

小学校時代は決して「優等生」ではなく、やんちゃ坊主だった話から、中学校

時代は野球が好きで、ひたすら泥にまみれて練習ばかりしていたこと。そのため高校受験では「志望校は無理」と言われ、そこからがむしゃらに勉強し志望校一本で合格する事ができたこと。また、高校入学後は甲子園、プロ野球選手を目指して野球に打ち込み過ぎで、大学受験では浪人生活も経験したことなどの苦労話も披露されました。

松村校長先生は、「目の前の山を登りなさい」という言葉を生徒達に贈ってくれました。何の苦労もなく現在に至っているわけではなく、苦勞し努力し、そし

て親への感謝の気持ちを忘れなかったからこそ今の自分があると話されました。私たち教職員も自分の「生きざま」を考えさせられる良い機会となりました。松村校長先生本当にありがとうございました。



## 国際交流

### エドグレンハイスクール ～ホームカミング&光星祭～

今年度、三沢基地にあるロバートD. エドグレン高等学校との姉妹校締結が実現し、それに伴って様々な国際交流が行われています。まず交流の第一歩として、10月5日に三沢基地で行われたホームカミングへ生徒12名が参加しました。このホームカミングというものは、卒業生たちを年に一回、母校にお迎えしてダンスなど各種イベントを楽しむという、伝統的イベントのことです。生徒達は普段入ることのできない基地の雰囲気や圧迫されながらも、フードコート内で身振り手振りで夕食を注文したり、ダンスパーティでは、積極的に輪の中に入って一緒に踊りを楽しんでいました。「コミュニケーションをとるために、いかに英語が大切かということが分かった。」「うまく話せずに悔しい思いもした。もっと英

語を勉強したいと思った。」など、生徒達はそれぞれの思いを抱き、とても貴重な体験をすることができたようです。光星祭では、エドグレン高校のブースを設け、JROTCと呼ばれる年少者予備役将校訓練課程を受けている生徒ら10名が、アメリカのホームメイドクッキーや、ケーキなどの販売をしてくれました。一緒にブースを作る準備過程で、初めは恥ずかしさや緊張の為に、なかなか話を出来なかった生徒達も、時間を共有するうちに徐々に英語を使う楽しさ、喜びを肌で感じたようでした。



日本語を交えたミュージカル仕立ての劇は、私達を演劇の世界そして異文化空間へと引き込ませてくれました。更に校長先生、教頭先生は着物の着付け体験をしたりと日本文化を存分に体験されているようでした。これらの交流を通して、自ら外国語を学び、自ら歩み寄ることが大切だということを、生徒達は身をもって感じる事ができたのではないのでしょうか。これからの国際交流が、お互いの絆を深めたり、生徒達にとって、将来の夢実現に向けて生かせるようなものになればと思います。

また体育館では、エドグレン高校の演劇が披露されました。華やかなダンスと共に繰り広げられる、英語と



## 雨二毛負ケズ、野西高祭

10月19日、20日の両日、第39回の西高祭が開催された。

一日目は、開祭式の後に映画鑑賞、カラオケ大会が行われ大いに盛り上がった。放課後には、翌日実施される模擬店準備の為、遅くまで残って準備をする3年生

の姿が見られ、暗くなった駐車場を担任が自らの車のライトで照らし、生徒と共に準備に勤しんでいた。

二日目は本校体育館にて、毎年恒例のちびっ子レスリング大会が開催された。県内外の沢山のちびっ子たちが、父母の



声援を浴びながら試合をしている様子を見て、本校の生徒も声を上げて応援していた。

外では3年生の各クラスと部活動の生徒が模擬店を出店していたが、昼前から雨で、校内への移動を余儀なくされた。商品の売れ残りが心配されたが、午後2時あたりには多くの店舗が完売となり、生徒たちは胸をなで下ろしていた。3年生のある生徒は、「文化祭の準備を皆で残って頑張ったため、クラスの団結が深まった」と話してくれた。天気には恵まれなかったが、心に残る思い出の文化祭になったようだ。



## P T A 研修旅行を終えて

平成25年9月28日土曜日に、PTA研修旅行が行われた。今回は、秋の爽快な晴々とした天気の中、南部方面へバスを走らせた。

主な見学場所は、青葉湖展望交流施設（通称・山の楽校）、世増ダム（青葉湖）、金田一温泉・仙養館の3ヶ所だった。山の楽校は、廃校となった増田小中学校を利用した体験交流施設で、週末は蕎麦打ち体験などイベントが多く行われている。当日、イベントは行われていなかったが、施設内には、世増ダム建設・完成に至るまでの経緯やダムの模型、昔懐かしいレトロな物品、卒業生の文集など展示されていた。参加者たちは、様々な展示物を拝見して、昔を思い出して、語り合っていた。



世増ダムでは、湖岸の右側にある展望台からの景色を眺めた。秋の紅葉には少し早かったが、雲ひとつない天気のおかげで、暖かい日差しを浴びながらの景色は、最高に心地の良く、とめどなくその場に居たい気持ちになった。参加者たちの中から、「紅葉の季節に、又来ようね♪」と言うような、声もあがっていた。

金田一温泉・仙養館では、会食・入浴をした。仙養館は、座敷わらしが良く出ると言われる館の近くで、仙養館でも稀に、座敷わらしが出るそうだ。会食は、新鮮な山の幸や刺身、すいとん、茶碗蒸しなどおいしいものを食した。その後、小1時間ほど自由時間となった。参加者たちは、温泉に浸かったり、付近の散策、昼寝などゆったりとした時間を過ごしていた。私は、その場に横になり目をつぶった。周りの音が何もなく、時間の止まったかのような空間で昼寝をした。普段の生活の音の世界から解放された感じだった。集合時間になり、全員合流した際には、それぞれの感想が飛び交っていた。





# 震災復興支援事業

## ～熱気球体験を実施～



青森県の学事課から、私立の各高校に東北大地震の被害に遭われた被災者のみなさんを慰労したり、楽しませる事業が出来ないかと伺いがありました、これまでの事例を確認したところカレーライス の炊き出し、演劇の披露、絵画を描いて送る等の活動が挙げられました、そこで本校ならではの活動として、高校のクラブでは全国的に非常に珍しい熱気球の活動で被災地の皆さんに楽しんでもらうことを県に提案し、熱気球の安全性をフリーフライト（ロープの係留なしで飛ぶ事）と本校のクラブで行う係留フライト（50メートルのロープでアンカに結び飛ぶ事）の違いを説明したところ採用となりました。



県の担当の方から実施するにあたり説明や条件などを聞いたところ、場所や日時は自分達で交渉する事、県からの補助は交通費、ガス代、引率者の宿泊代のみで、食事代、生徒の宿泊代は認めないと の事でした。そこで校長、事務長に相談したところ食事代、生徒の宿泊代を学校から都合してもえることになり、この支援事業に正式に取りかかることになりました。

メンバーは熱気球クラブ3年生の4名、2年生の2名、引率教師は食事係（荒）、



トラック運転手（成田）、バス運転手（南）、応援世話係（宍戸）の4名で行くことになりました。

熱気球は風に弱く（風速3メートル以上は飛行できない）現地に行って飛ばせないことも考えられるので、ものづくりクラブで作ったUFOキャッチャー、ロボットアーム、タワークレーン、スロットカーなどゲーム感覚で遊べる「出前ゲームセンター」を熱気球と一緒に行う事にしました。熱気球の係留フライトは気球を上げて絵になると思われる岩手県陸前高田の一本松付近と考へ、陸前高田市の教育委員会に相談したところNPO法人の「パクト」さんを紹介され、9月14日に小友小学校で行う色々なイベントに参加する事になりました。（あいにく熱気球は、昨年八戸の青年会議所からの依頼で館鼻漁港で一緒になった、千葉県熱気球業者が行い、我々はゲームセンターだけの出展）

遠くまで行って一回だけの活動ではもったいないので、レスリング関係で宍戸先生の知りあいである山田町の上野先生に相談したところ翌日15日に町の祭りがあり、それに便乗して熱気球とゲームセンターをやるよう手配をしていただきました。（上野先生も被災され、宍戸

先生は何度となく生活物資など届け復興支援を早くから行っていた）

現地の確認のため8月に陸前高田市の行き、建設課の方と一本松付近に行きましたが工事や資材置き場になっており熱気球をやる状態ではなかったため、中学校を紹介され校長先生から13日のグラウンド借用許可をもらいました。その後陸

前高田市と山田町に行きイベントの案内のチラシ配布をし、準備はほぼ完了となりました。（熱気球を上げるだけで簡単に考えて応募したもの、交渉や打ち合わせなど大変でした）

9月13日出発の朝、生徒とともに早めに出校し、前日借りていたトラックの荷台にロフトを垂木とコンパネで作し、重い物は下に軽い物は上に積み込みました。RABの取材を受け、（13日夕方のRABニュースで放送されました）全校生徒に見送られ9時30分に本校を出発、一路岩手県に向かいました。熱気球は風がない早朝に行くため、朝5時に起き作業開始、6時からのフライト予定のためバス泊となりました。翌朝、痛い体で気球の立ち上げ作業を始めましたが、少し風があり、暫くインフレーター（エンジンに羽根が付いた送風機）を回し、球被を膨らませ風が弱まるのを待ち、風の落ち着いたところでガスバーナーに火をつけ無事気球を立ち上げ、「絆 がんばべし」の垂れ幕を下げ写真撮り、お客さんを乗せ熱気球のフライトを経験してもらいました。

その後、小友小学校にテントを張り「出前 ゲームセンター」を開き、子供達に遊んでもらいました。



15日は山田町で同様に早朝に熱気球を上げました。雨のため「出前 ゲームセンター」は昼で終了となりました。ここまで大変な苦勞がありましたが、事故もなく多くのお客さんに喜んでいただきました。できることならば毎年の行事としてやっていけたらと思います。16日はどしゃ降りので帰校し、自動車実習場にテントなどをひろげ乾かし、解散となりました。

名コック長のおかげでみんな痩せることなく、（少し重くなった者も……）無事に支援事業を終えることができました。協力して下さったみなさんには本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 八戸学院フェスタ

## 「～雅な調べ～ 野辺地祇園祭り」

本校は、「～雅な調べ～ 野辺地祇園祭り～」のタイトルのもと、神楽、祇園囃子を披露した。何を発表するかを決める段階では、本校の特色教育の一環として取り組んでいる野辺地祇園祭りが良いとすぐに決定した。お囃子の演奏も、祭りで演奏しているから出来るだろうと安易に考えていた。しかし、八戸市公会堂のような大きな舞台での演奏は全く経験がなく、発表準備は、すべて一からのスタートとなった。

神楽の演奏は、笛や鐘を担当していた空手道部とバドミントン部男子へ協力を仰いだ。

メインとなる祇園囃子部員は、ほとんどがスクールバス通学生で練習時間が限られたが、出演を快諾。舞台上で使う欄干



や灯籠、町印は、工業系列の旗谷先生が制作してくださった。学校行事に追われながらも練習を重ね、準備を進める中、気づくともう11月に入っていた。「間違っても気にしない」を合言葉に、生徒を励ましながら最後のリハーサルを終え本番を迎える。当日は、全校生徒より一足早く公会堂へ入った。衣装に着替え、神楽と祇園の演奏担当別に音合わせしながら緊張した面持ちで待ち構えていた。

いよいよ出番。司会の桜庭佑緑が上手にリードする中、太鼓の合図とともに「は～やっせえ は～やっせ」の掛け声で神楽がスタート。次に伝統的な美しい衣装に身を包んだ 祇園囃子部員が美しい雅な音色を繰り出した。本番はあつという間に過ぎていった。

終了後、楽屋に戻るなり緊張の糸が切れ、涙目でトイレに駆け込む生徒や、大きな掛け声を出しきれなかったと悔やむ生徒もおり、真剣に取り組んだ姿に胸が熱くなった。どれをとって

も、みんな精一杯頑張った素晴らしい演奏であった。「良かったよ！」という先生方からの言葉に、笑顔で答える生徒たちの顔はとても満足げであった。この発表から得た自信がきっと、生徒たちの今後につながるに違いないと感じた。

また、鑑賞した他の生徒たちにとっても、法人一同が介したこの記念イベントへの参加は、八戸学院の一員の絆を体感する有意義なものであった。これを機に、八戸学院野辺地西高校の生徒であることに誇りを持ち、学校生活を送ることを期待する。



## 全国高校総合体育大会

清水目

優生さん（十和田東中出身）  
第3位入賞

8月5日～8日長崎県島原市「復興アリーナ」で開催されました。全国高等学校総合体育大会レスリング競技女子の部に於いて本校生徒清水目優生さんが46kg級にて第3位に入賞しました。

この大会は今年度から女子がオープン競技として始めて開催されることになり、清水目さんは東北大会に於いて優勝して東北代表として出場することになりました。

本来、彼女は43kg級の選手ですが、こ



の大会にはその階級が無く、仕方なく1階級上の46kg級に出場することになった訳です。この大会では全国の地区代表の精鋭が凌ぎを削りました。

彼女は2回戦からの出場でしたが、対戦相手は昨年度の全国高校大会43kg級準優勝山口県の選手です。この選手とは何度も対戦して惜敗を喫して苦手意識を持っていました。

いよいよ試合開始です。1ラウンド目はお互いに手の内を知り尽くしているために、互いに攻めきれずにいましたが、後半相手の消極的な攻撃の為に1ラウンド1-0でリードして終了しました。2ラウンド目には得意のタックルが2度決まり終始リードして5-2の判定勝ちを収めました。この結果、これまでも何回も惜敗して悔しい思いをしていた選手にリベンジして3位以内を確保しました。

準決勝戦の相手選手は国民栄誉賞受賞者でオリンピック3連覇中の吉田沙保里選手の一志道場出身で昨年度43kg級全国高校チャンピオンの三重県久居高校の選手でしたが、善戦及ばず敗れてしまいました。

来年度は妹の咲生さんで優勝を目指しリベンジしたいと思います。

また大会会場は坂本竜馬がサッカーボールを足で押さえている大きな銅像がある有名な競技場であり、また地元の皆様方の暖かいおもてなしに感謝し、大変思い出深い大会でした。



# 八戸学院短期大学附属幼稚園

## 家庭・地域との 連携を深める参観日

幼稚園では、年間を通して学期毎に3回の参観日を計画しています。

1回目は、PTA総会を兼ねて4月に行います。2回目は10月に学年ごとに、ゆっくりと保護者の方にお子様の様子をご覧いただき、その後は約1時間の講演会を実施しました。その内容をご紹介します。

1日目は、満3歳児と年少組の参観終了後、本園の給食を依頼していますベースボールハウスの栄養士の方から、「朝食の大切さ」・「子どもにとって大切な栄養素」・「子どものアレルギー」についてお話をしていただき、成長期の大切な食育について理解を深めた後、そろって給食の試食を行いました。

2日目の年中組参観後は、スクールカウンセラー 坂本 玲子先生の「心を育てるコミュニケーション」と題して、①心は人間関係から育つ ②心は人間関係

の中で傷つく ③心を育てるコミュニケーション の3点からお話をさせていただき、言葉でだけで伝えようとすることなく共感し、子どもに寄り添い心で向き合っていくことを具体的にお聞きすることができました。

3日目の参観日最終日は、年長組の保護者の皆様に、小学校を意識し、八戸市立湊小学校校長 田中 昭子先生をお迎えして八戸市教育委員会の資料「わくわく いっぱい いちねんせい」を参照しながら、学校の様子、行事を通して小学校までに身につけさせたい力、必要な力について具体的なお話をお聞きしました。

・人格形成の基礎づくり…

あいさつ・きまり・いのち

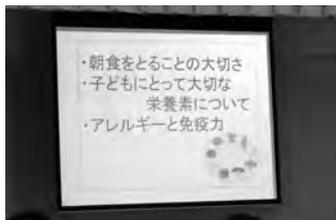
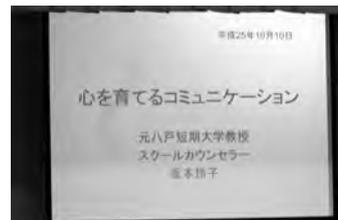
・学びの基礎づくり…

学びの基礎となる豊かな身体感覚以上の事を、「入学までの一年間によ

りよい成長のため幼稚園と家庭で協力して取り組み、いろんなことを体験し、失敗したらまたやり直し、元気、優しさを育てましょう」とお話をされ、保護者の方々はその言葉に感銘を受け、小学校に向けて子どもと楽しく4月を迎えることの心の準備ができました。

参観日は、子どもの様子を見るだけではなく、分野の方や、地域の方からの情報を得ることが出来るように、幼稚園は連携の場を提供していかなくてはなりません。

今年度最後の参観日は2月に予定しています。貴重な時間として子どもの育ちを保護者と共に見守り、更に地域との連携を通して多くの情報の発信源となり、有意義な参観日として進めていきたいものです。



# 八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ

親子で“作る”“見る”“あそぶ”を体験する行事『親子ふれあいデー』。

今年のテーマは『とき』。そこから自由な発想と工夫を凝らした親子での作品づくりが夏休みから始まりました。笑ったり、時には親子で悩みながら一緒に作品を作り上げていったことは、子どもたちにとって楽しい、貴重な思い出となったのではないのでしょうか。

当日は、世界にたった一つしかない『親子作品』と子どもたちと教師、実習生が協力して作った作品などが幼稚園を埋め尽くしました。素敵な美術館へと変わっ

## 親子ふれあいデー

た空間で、「これおもしろいね」と家族でお友だちの作品を見たり遊んだり♪

お天気にも恵まれ、お昼は保護者の方々が出店したカレーライスや焼きそば、やきとりなどをいただきながら園庭でゆったりと過ごすことができました。OBの方々のカフェ等も大盛況でしたね！多くの皆様のご協力で、今年の親子ふれあいデーも思い出に残る素敵な一日となりました。



# 八戸学院短期大学附属幼稚園第二しのもめ

## のびのび すくすく ぐんぐん展

子ども達が様々な体験画や色々な物の観察画、大好きなお話を聞きながら描いたお話絵などたくさんの作品がホールいっぱいに展示され「見て！見て！僕の、私の絵」という心の声が聴こえてきました。

今年のテーマは、《ぐりとぐらのクリスマス》子ども達の大好きな絵本のお話からイメージを膨らませて取り組みました。全園児で手や指を使って作った、のり貼りの作品をケーキで表現しました。きりん組は空き箱で作った等身大の自分

や、墨文字から連想される色をつかって染めた、染め文字。うさぎ組は「ぞうのエルマー」のお話絵。りす組は和紙に色



とりどりのシャボン玉を描いた体験画。ひよこ組は自分が食べて味わったキウイの絵を描きました。

幼稚園全体が300点あまりの楽しい絵や工夫した作品群で、にこにこのびのび すくすく ぐんぐん と子どもの成長を表した展示会になりました。



## 秋の自然を楽しむ栗拾い・ぶどう狩り



今年も階上にある大きなくり林へとでかけ秋の自然を体感しました。落ちている栗をみつけ、手や足をつかい収穫を楽しみました。年長児が、年少児のお手伝

いをする姿もみられ、和やかな収穫体験となりました。また、くりだけでなく「あけび」もあり、あまりの甘さに子どもたちは驚いていました。

ぶどう狩りは天気にも恵まれ、三戸郡の観光ぶどう園へ出かけました。広いぶどう園には、甘い香りがどこまでも続いていた。年長・年中児は、自分達で蔓をはさみで切り収穫体験もしました。お友達と食べ比べをしてみたり、甘いぶどうをみんなに配ってあげたりと、秋の味覚を友だちと共に楽しみました。おいしさのあまり三房も食べた子もいました。

私たちは、子どもたちと四季折々の体験行事に触れ、感動を共に分かち合えることを大切にしながら園行事をすすめていこうと思います。



## 理事長散策：人の出会いは挨拶から

11月6日は、八戸市公会堂に学院のみんなが集まっての一大行事でした。午前の幼稚園そして午後の高校から大学まで、一堂に会しての発表会は、みんなの協力で大成功でした。八戸学院フェスタ「絆」と題した今回の行事を契機に、みんなで「八戸学院」を大切にしていこうと誓い合った。園児も生徒も学生も、そして教職員も一緒に気持ちになったことを嬉しく、頼もしく思いました。皆さんに感謝。

ところで、先日文科省の実地調査の席上、委員からキャンパスの学生さんが大変良い挨拶をしてくれたというお褒めであった。普段何気ない生活の中で、当たり前のように思っていたが、改めてこう言われると嬉しいものだ。都会の大学の学生に比べたお褒めでし

たが、素直に受け取りながら、スポーツ学生の挨拶はもっと評価が高いと自慢に思った。

仕事柄いろいろな会合に出るのですが、こうした類の話は卒業生や進路に関する会合で良く出る話だ。ある卒業生によれば、中村キヤ先生は、いつも「挨拶はしっかりと大きな声で」と指導された。そのことが強烈な記憶として残っているという。就職活動の中で挨拶指導は、力を入れて指導するところだろう。光星高校の小野寺校長補佐は、この手の指導は天下一品である。生徒指導もそうであるが、教員の挨拶指導も先生にかかれば、甲子園球児より立派になる。

実施調査の席上、八戸学院大学の就職率の高さを褒められましたが、挨拶の良



さも起因していると思い、日頃の教育活動の賜と感謝の念を感じます。

秋田の知人で、スポーツ界では超有名な方と同乗したことがある。そのとき携帯にかかってきた会話からすると、今面接にいく教え子と思われる。その知人は「面接の時に、大きな声でしっかり挨拶をすること。自分の特技や成績を自慢せず、面接官から聞かれてから自分の特技や成績を言うこと。頑張ってるこい。」豪快な指導に感心した。いつの世の中でも大切な挨拶である。

# ご講演ありがとうございました。



八戸市民病院 副院長・救命救急センター所長 今 明秀 先生  
(八戸学院大学会館にて)



南郷図書館長 石原 均 氏  
(八戸学院大学・八戸短期大学図書館チャペルにて)



八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ園長 山西 幸子 先生  
(八戸学院短期大学にて)



八戸市立湊中学校校長 松村 道弘 先生  
(八戸学院光星高校にて)